柏木登先生を偲んで

日本組織適合性学会の発足にご尽力され，第1回本学会大会の大会長を務められました柏木登先生（北里大学名誉教授）は，ご病気療養中でしたが，2010年3月29日に永眠されました。

柏木先生は，千葉大学医学部をご卒業後，同第二外科を経て，1966年から9年間，アメリカ Colorado 大学で，臓器移植の先駆者である Dr. T. Starzl のもとで移植医療と研究に携わりました。この間，Drs. K. Ishizaka, G. Möller, H. Festenstein など世界中の多くの免疫学者と親交を深められました。1975年に帰国後，北里大学医学部教授として赴任されてからは，日本における移植医療を推進するための HLA 抗原系および新しい免疫抑制法の研究を展開されました。本学会の前身である日本組織適合性研究会においては，相沢幹，辻公美，笹月健彦各先生らと共に，日本における HLA 研究の創生期を担った研究者・指導者の1人として活躍されました。

1987年の 10th International Histocompatibility Workshop and Conference（IHWC）で，次回の 11thIHWC を1991年に日本で開催することが決定されたのを契機として，日本組織適合性研究会は一回り大きな学会組織となる必要性が認識されました。先生は，学会設立準備委員の1人として，IHWC 開催に間に合わせるべく会則等の整備を進め，1991年の日本組織適合性学会の発足に大きな貢献を果たされました（初代会長：相沢幹先生）。1992年7月には，柏木登大会長のもと，第1回日本組織適合性学会大会が東京で成功裏に開催され，今日に至る本学会の基礎が固まりました。その時の先生の回顧録が，学会ホームページに掲載されておりますのでご覧いただければ幸いです。

私は1978年から柏木研究室に所属し，HLA 遺伝子の解析と DNA タイピングの確立に携わりました。また，移植免疫を理解するためには，HLA 抗原を認識する T 細胞側の研究も必須であるとの先生のご指導で，移植に関わる T 細胞レセプターの研究も行いました。11thIHWC では，先生との co-chairman で T cell component を担当し，世界中の研究者と一緒にアロ反応性 T 細胞レセプターの多様性を解析しました。今でも，11thIHWC の舞台となった横浜パシフィコを訪れると，当時のことが鮮明に思い出されます。

柏木先生は，いろいろな雑務にも拘わらず，常に最先端の知識を得る努力を惜しまず，大学図書館を最も頻繁かつ夜遅くまで利用される教授でした。時折，未知の問題に対するご自分の考えを披露され，我々教室員に意見を求めることがありました。我々が満足な知識と考えを持っていないことがわかると，寂しそうな微笑を浮かべ

ていたことが思い出されます。また，昼食を一緒にとった際には，先生はやおら食堂のナプキンにT細胞やB細胞の図を書き，延々ディスカッションしたこともありました。さらに先生は，我々がなんとなく使用している各種統計計算の意味や，細胞表面積と蛍光強度との関係を数式で解説されたり，T細胞レセプターの類似性を評価する独自のコンピュータアルゴリズムを考案されたりしたこともありました。このように柏木先生は，免疫学はもちろんのこと，研究に関連するあらゆる分野を妥協することなく理解され，さらには，教授室に並んでいた多くの和・洋書から推察されましたように，およそ生物学全般に対するあくなき探求心を持たれていました。その姿勢は，退任後も全く変わることはなく，2年前に体調をくずされた後も，依頼原稿を仕上げるために精力的に資料を分析しておられたお姿が目に浮かびます。

柏木先生は，ご家族との長い海外生活中，また帰国後も，超多忙ななかを奥様と3人のご子息をとても大切にされておられました。5年前に先立たれました奥様に残された時間が少ないとわかった時，先生がおっしゃった言葉が忘れられません。「実は最近，料理の勉強を始めたんです。これからは妻に精一杯つくして恩返ししますよ。」今頃は天国でお二人幸せにお過ごしのことでしょう。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年8月31日

北里大学医療衛生学部免疫学　小幡文弥

お詫び

「柏木登先生を偲んで」追悼文を小幡文弥先生にご執筆頂きましたことをお礼申し上げますとともに，編集委員会の不手際により掲載が遅くなりましたこと，小幡先生をはじめ会員の皆様方に心よりお詫び申し上げます。

MHC 編集委員会委員長　高原　史郎

第20回　日本組織適合性学会大会のご案内

第20回日本組織適合性学会大会
大会長　五條堀　孝
（国立遺伝学研究所　生命情報・DDBJ研究センター）

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

まずは今回の東北関東震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表すとともに，被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

この震災の影響で，東京電力管内の電力不足を受けた「計画停電」が実施されております。

当初，第20回日本組織適合性学会大会開催予定地でありました三島市民会館も，その対象となっており，原則的に4月で計画停電を打ち切る方向で検討されていることが発表されましたが，大会実行に万全を期すということで，同じ静岡県内でも，中部電力管内で，こだまだけでなくひかりも頻繁に停まり，三島市から新幹線ではさほど遠くない静岡市に開催地を変更することが決定致しました。

本大会は「集団内多様性や進化」をテーマとして，MHC研究の基礎から臨床まで多様な視点から最新の成果を取り上げたいと考えていますので，組織適合性の基礎・臨床に関わる多数の方々の演題のご応募とご参加をお待ちしております。

開催場所の詳細は，決定し次第，ホームページにて掲載させていただきます。何卒，ご理解，ご了承の程，よろしくお願い申し上げます。

会　期：　平成23年8月28日（日）～30日（火）
会　場：　静岡県静岡市（会場未定）

［大会ホームページ］

http://www.aeplan.co.jp/hla2011/

［大会内容（予定）］

◆8月28日（日）
1. 教育講演（HLA技術者研修会）
2. QCWS部会
3. QCWS集会
4. 認定制度試験
5. 認定制度委員会

◆8月29日（月）
1. シンポジウムⅠ　MHCからみた種内多様性と進化
2. シンポジウムⅡ　ゲノム科学から切り拓く新時代のライフサイエンス
3. 学術奨励賞および一般口演
4. ポスターセッション
5. 懇親会

◆8月30日（火）
1. シンポジウムⅢ　HLAと創薬
2. シンポジウムⅣ　MHCを見据えた臨床医学

[海外招待講演者（予定）]

・Luca Cavalli-Sforza（交渉中）
Morrison Institute for Population and Resource Studies Herrin Labs, Room 467
Stanford University

・Silvana Gaudieri（交渉中）
School of Anatomy and Human Biology and Centre for Forensic Science
University of Western Australia

・Paul Teraseki
University of California, Los Angeles

・Dominique Charron（交渉中）
Centre Hospitalier, Universitaire Saint-Louis

[事前参加登録]

事前参加登録は大会ホームページ（http://www.aeplan.co.jp/hla2011/）にて申込み可能です。
事前参加登録をされる方は，2011 年 7 月 28 日（木）までに事前参加登録をお願いいたします。

[参加費]

●事前参加費（2010 年 8 月 12 日まで）		●当日参加費	
◆理事・評議委員・非会員	¥10,000	◆理事・評議委員・非会員	¥12,000
◆会員	¥8,000	◆会員	¥10,000
◆学生	¥5,000	◆学生	¥6,000

[一般演題募集要項]

1.　発表形式

口頭またはポスターでの発表です。
発表形式（口頭またはポスター）の決定に関しましては，プログラム委員会に一任下さい。

2.　応募資格

筆頭演者は本学会員である事が必要です。
非学会員の方は，日本組織適合性学会ホームページ（http://jshi.umin.ac.jp/index.html）から入会手続きを行って下さい。

3.　申込方法

1）　演題のお申込みの前に事前参加登録をお願いいたします。

・事前参加登録を完了させますと，事前参加登録の確認メールが届きます。その確認メールに事前参加受理番号が記載されます。この番号が演題申込みの際に必要となります。

2）　演題の申込みは，E-Mail のみでお受けいたします。

・E-Mail の件名は「20JSHI 一般演題」として下さい。
・①演題申込書，②要旨の 2 つのファイルを添付して，20jshi@aeplan.co.jp 宛にお送り下さい。

3）　演題申込書ファイルの作成

・第 20 回日本組織適合性学会大会ホームページ（http://www.aeplan.co.jp/hla2011/）から「演題申込書」をダウンロードし，必須項目（事前参加受理番号，演題カテゴリー番号，演題名，演者，所属，代表者の連絡先住所，電話番号，Fax，E-Mail）をご記載下さい。

・ファイル名は「応募者演題申込書 .xls」として下さい。(例　五條堀孝演題申込書 .xls)
・演題カテゴリーは，下記のカテゴリーよりお選び下さい。(それぞれ基礎および臨床を含みます。)

演題カテゴリー

1. 臓器移植
2. 造血幹細胞移植
3. 細胞・組織移植
4. 再生医療
5. 疾患
6. 免疫
7. 技術・方法
8. 疫学・統計解析
9. 動物 MHC
10. その他

4) 要旨形式

・要旨は，Microsoft Office の Word 形式の 2003 以上で保存し，ファイル名は，「応募者抄録 .doc」として下さい。(例　五條堀孝抄録 .doc)
・下記の記載例をご参照の上，「演題名，演者，所属，本文」の順に記載して下さい。
⇒演者は，発表者に○印を付けて下さい。また，各縁者の後に上付き文字で所属番号を入れて下さい。
⇒所属の正式名称が長い場合は，省略所属名で記載して下さい。
⇒本文は，MS 明朝 11 ポイントで作成して下さい。800 文字以内を厳守し，【目的】・【方法】・【結果・考察】などに分類して下さい。英数字は半角を使用し，2 文字で 1 字とカウントして下さい。

※要旨記載例

大会ホームページ (http://www.aeplan.co.jp/hla2011/) の「演題申込」のページの「要旨記載例」を参考に作成を願います。

(ご注意)

申込者ご本人が入力したデータをそのまま抄録集に使用しますので，タイプミス等あっても，そのまま印刷されます。ご注意下さい。

また，要旨の修正は，締切日以降に受付することも出来ませんので，ご注意下さい。

4. 演題申込締切

2011 年 5 月 19 日 (木) 必着

5. 採択通知

演題をお申込いただいたのち，確認のメールをお送りいたします。もしも，演題お申込確認メールが届かない場合は，運営事務局 (20jshi@aeplan.co.jp) まで，ご連絡下さい。採択に関しましては，2011 年 8 月上旬に演題発表形式 (講演 / ポスター) および発表日時を記載しました採択通知を E-Mail にて連絡代表者へ通知いたします。

[懇親会]

日　時：2011 年 8 月 29 日 (月) 19:00～ (予定)
会　場：静岡県静岡市 (会場未定)
参加費：一般　¥5,000　　学生　¥3,000

[宿泊・交通のご案内]

本大会の宿泊・交通に関しましては，各自でご手配をお願いします。

[2011 年度学術奨励賞]

第 20 回日本組織適合性学会大会の一般演題に応募された中から，特に優秀と認められた演題の筆頭演者に学術奨励賞が授与されます。応募希望者は別途の手続きが必要です。詳細は日本組織適合性学会ホームページおよび MHC 誌 Vol. 17 No. 3 に記載されている「2011 年度学術奨励賞の募集について」をご参照下さい。

[大会事務局]

〒 411–8540　静岡県三島市谷田 1111
国立遺伝学研究所　生命情報・DDBJ 研究センター　遺伝情報分析研究室
第 20 回　日本組織適合性学会大会　事務局

[運営事務局]

〒 101–0051　東京都千代田区神田神保町 3–2–8
昭文館ビル 3F (株式会社エー・イー企画内)
第 20 回日本組織適合性学会大会
運営事務局　担当: 衛藤　匡
Tel: 03–3230–2744　FAX: 03–3230–2479
E-mail: 20jshi@aeplan.co.jp

認定制度委員会試験問題検討部会からのお詫びと訂正

平成22年度・認定HLA検査技術者試験問題の問32において，問題の表現に不備があり，解答の選択肢が2問生じたため，不適切問題とさせて頂きます。

今後このようなことが無いように，尚一層注意深く検討し問題作成にあたりますので宜しくお願い致します。

問32 臓器移植とHLA，ABO血液型について誤りはどれか。

a. 免疫抑制療法の進歩により，移植成績が向上しHLA適合度の重要性は軽減している。

b. HLA-A, B, DRゼロミスマッチの生存予後は，ミスマッチ陽性に比して著しく良好である。

c. 親族からの肝移植では，GVHD防止のため，レシピエントのHLAホモ接合体のチェックは必須である。

d. 献腎移植では，ドナー，レシピエントのABO血液型を一致，または適合させる必要がある。

e. ABO型適合とは，ドナーO型からレシピエントA，BまたはAB型，ドナーA型からレシピエントAB型，ドナーB型からレシピエントAB型の組み合わせである。

本問題の正解はbとしましたが，bに加えcも誤った記述であることから正解と致します。

すなわち，ドナーナーのHLAホモ接合体は，GVHDハイリスクであることから，肝臓移植や脳死肝移植の場合にはドナーがホモであるかどうかをチェックすることが望ましいとされています。

組織適合性技術者認定制度委員会試験問題検討部会

組織適合性検査技術者認定制度
平成 23 年度・認定 HLA 検査技術者講習会のお知らせ

組織適合性検査技術者認定制度委員会
委員長　田中　秀則
組織適合性検査技術者認定制度委員会教育部会
部会長　西村　泰治

日　時：平成 23 年 8 月 28 日（日曜日）10：00〜12：00
会　場：第 20 回・日本組織適合性学会 大会会場
　　三島市民文化会館（ゆうゆうホール：静岡県三島市）
テキスト：テキストは講習会の約 1 ヶ月前に，学会ホームページ上に掲載します。会場でのテキストの販売はいたしませんので，必要に応じて印刷し、ご持参下さい。
受講証明書：認定制度に関わる受講証明は，会場入口の受付にて受講者 1 人につき 1 枚を発行いたします。
内　容：各講習とも質疑応答を含めて，35 分を予定しています。講演の抄録につきましては，MHC Vol. 18, No. 2 大会案内号（2011 年 8 月上旬発刊予定）に掲載いたします。

(1)　非古典的 MHC クラス I 分子の多様な機能
笠原　正典（北海道大学　大学院医学研究科　分子病理学分野）
(2)　臓器移植での HLA 検査の現状と問題点
橋口　裕樹（福岡赤十字病院　検査部　HLA 検査室）
(3)　iPS 細胞バンク構想における HLA タイピング
木村　貴文（京都大学　iPS 細胞研究所　規制科学部門）

この講習会は，今後 HLA 検査技術者認定を取得，あるいは更新しようとする者を対象に実施されます。従来のように，事前に受講希望届けを提出し，事前登録していただく必要は，ございません。

なお本講習会は，第 20 回・日本組織適合性学会大会の教育講演を兼ねておりますので，大会参加者の方々には，自由に御聴講をいただけます。

日本組織適合性学会　技術認定制度委員会　QCWS 部会名簿（2011 年）

担当	氏名	所属
部会長:	田中秀則	日本赤十字社　中央血液研究所　中央骨髄データセンター
副部会長:	中島文明	日本赤十字社　中央血液研究所　研究開発部
副部会長:	成瀬妙子	東京医科歯科大学　難治疾患研究所　分子病態分野
・企画解析部門		
臓器移植分野:	佐藤　壯	札幌北楡病院　臨床検査課
造血幹移植分野:	森島泰雄	愛知県がんセンター中央病院・血液細胞療法部
輸血分野:	高　陽淑	大阪府赤十字血液センター
・試料管理部門		
DNA-QC 担当:	安波道郎	長崎大学　熱帯医学研究所
抗体 -QC 担当:	中島文明	日本赤十字社　中央血液研究所　研究開発部
・部会員:		
	太田正穂	信州大学　医学部
	木村彰方	東京医科歯科大学　難治疾患研究所　分子病態分野
	佐田正晴	国立循環器病センター　再生医療部
	宮崎　孔	北海道血液センター　検査三課
	橋口裕樹	福岡赤十字病院
	山本　賢	国立循環器病センター　臨床検査部

事務局: 日本赤十字社　血液事業本部　中央血液研究所内